

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義 「協同組合論」



＜第6回(オンデマンド)＞

「医療・介護と協同組合」

堀尾 茂貴／みえ医療福祉生活協同組合専務理事

大田 卓／みえ医療福祉生活協同組合主任

第6回（11月9日）：受講46名（市民開放授業一般受講者等を含む）

医療福祉生協というのは、地域の人々が、それぞれの健康と生活にかかわる問題を持ち寄る消費生活協同組合法に基づく、人々の自治的組織である。

みえ医療福祉生協の事業と活動は、ともに創るという点が特徴である。医療・介護の従事者と組合員は、対等の立場でありパートナーであることを大切にしている。病気になったから病院に行くのではなく、一人ひとりが健康で、豊かに暮らしていける社会をつくることを大切にしている。市民参加のまちづくりでもある。

【第6回／講義の要旨】

- ・住民の手で「自分たちの診療所」をつくらうという消費者運動をきっかけに県内に医療生協ができ、2011年に県内5つの医療生協が合併し、みえ医療福祉生協が誕生した。基本理念は、「健康をつくる」「平和をつくる」「いのち輝く社会をつくる」である。
- ・健康格差を縮めていくには、医療資源にアクセスできない人、しない人たちへのアプローチが重要である。病院の外にある原因に介入していくには、医療・介護従事者がコミュニティに入ること、組合員・地域住民・行政等との協同が不可欠である。
- ・組合員や地域住民が、健康で安心して暮らせる地域づくりを目指し、健康づくり、たまり場、たすけあいなどの活動をおこなっている。たまり場「ひだまり」は、組合員の声が詰まった宝庫である。有償ボランティア「いきいきくらしの会」は、暮らしの「困った」ことを組合員どうしで解決することにある。
- ・誰かが何とかしてくれる時代ではない。地域は自分たちで良くする住民自治が重要であり、“わたし”のやりたいことを“ミニマム”に始めることが大事である。
- ・COVID-19により事業は大きなダメージを受けている。外来患者の減少、検査件数の減少、健康診断の中止、マスクやガウン等の衛生用品不足、職員の身体的・精神的疲弊が続いている。人との接触を減らす中で、地域の「つながり」は脆弱化している。ウィズコロナ時代、組合員活動のあり方も見直すことが必要である。質の高い医療・介護とともに、組合員と地域住民の生活困難を解決する砦にならなければならない。「誰一人取り残さない」地域づくりが最も重要な課題である。

第6回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・地域に密着して活動し、うまく機能していたコミュニティもコロナウイルス等の事態に直面して新しいあり方を迫られていると感じた。コミュニティのあり方、これまでの顔を合わせて話すといったあり方は変わる必要もあると感じたが、一方で医療・介護の分野においては完全に顔を合わせないということも難しく、組合員どうしを守るための意識がより大切になると考える。
- ・病院は病気にかかったら行くものだと考えていたが、経済的理由などからメディカル・プラになってしまう人もいて、思ったより医療は行き届いていないのだろうかと感じた。また、単に健康を維持するだけではなく、生活の中で困っているところを助け合う仕組みもあって凄いなと思った。
- ・「生協は経済的に勝ち抜くために事業をしているわけではない」という言葉が印象に残った。経営的にも状況が厳しいのは確かだが、自分たちで自分たちの生活をよくする、よりよい社会を目指すという目的を常に第一に事業を行う事の大切さを学んだ。
- ・自分たちの住んでいる地域は自分たちでよくする必要がある、誰かが何とかしてくれる時代ではないという住民自治の考え方はどんな時代においても重要なものだと感じた。
- ・みえ医療福祉生協の成り立ちと基本理念が大切だと思いました。なぜなら、みえ医療福祉生協が伊勢湾台風などの困難から、市民や県民を救うための手助けとなるように創設されたという目的や元々の存在理由を知ることができたからです。
- ・単純に医療と聞くと病院でお医者さんに診てもらって…という印象だが、気軽にその場を設けられるような取り組みだけでなく、班会のように健康増進のための取り組みや、たまり場、たすけあい運動など地域住民が協力しあって健康に過ごしやすい社会を作っているところが素敵だと感じたし、生活に一番近い部分から健康へアプローチしていくことが大事だと感じた。
- ・『「陽だまり」での組合員の声』というところで、「その人が好きなことをしゃべって帰っていくのを受け入れることがその人の居場所になること」という話題がとても大切だと思いました。また、「そうして自分の居場所も作っていく」、「やがて自分の居場所にもなっていく」という話になるほどと感じました。
- ・みえ医療福祉生協の活動について、地域住民の健康のケアや助け合い運動、コミュニケーションの場を設けるなど、常に地域住民が過ごしやすいような取り組みを行っていることが分かった。高齢化社会になる中で、病院への交通手段や日常生活で生じる不便なことなど、地域密着型でサポートすることは、地域住民にとって有益で便利な取り組みであると感じられた。また、コロナウイルスの流行下において、みえ医療福祉生協も大きなダメージを受けていると知った。今後、ウィズコロナの時代になり、地域住民とのコミュニケーションや相互協力することなど、以前に比べて困難になると考えられる。しかし、生協はそのような状況下でも、多くの課題がある中で、持続可能な社会の実現に向けて、誰しものが生活しやすいような事業を展開していくことが重要であると思った。
- ・地域の人々の話をじかに聞くことで、本当に必要としていることや困っていることなどが伝わり、地域一体となってよいまちづくりを行っているように思った。病院に来ることに対するハードルというものが存在し、自分の視点からではわからないこともたくさんあるように思った。地域に出て実際に話を聞くことで見えてくる困難なことや直したほうが良いことあり、協同して取り組んでいくことの重要性が分かり、積極的に取り入れていくことが良いと思った。時代が進むにつれて地域とのつながりが薄れていく中、コミュニケーションの場を作り、協力して生活していくことを目的として協同組合が行う活動が地域の人々にとってどれほど支えになっているのか今回の講義で切に感じた。

- ・今までの講義で生協は組合員のニーズ・願いを基礎にした暮らしの助け合いの組織であると学び、生協だからできることが沢山あることが分かりました。誰かが何とかしてくれる時代ではないため、自分たちの暮らす地域は自分たちで良くする住民自治が大切であることに改めて気づくことが出来ました。
- ・今、コロナ禍で孤独な生活を強いられているが、今こそ協同組合としての役割を發揮し、視野の外に置かれた人たちとつながり続け、だれ一人取り残さない地域づくりを提案していて、また、コロナと共生していくための方法まで考えていて、なんでもまずは受け止めて対処法を考えていく姿勢が素晴らしいと感じた。今の時代、必要不可欠な存在である医療・福祉と私たち日本国民を上手くつないでくれているのが医療福祉生協で、コロナ対策だけでなく、たまり場やボランティア活動を積極的に組合員が行っていて高齢者の体のケアだけでなく心のケアまでしてくれることが分かった。さらに組合員が自らの行う活動の意味合いをととてもよく理解しており、それがまたより良い協同組合活動に繋がっていると感じた。
- ・病気などにかかった場合、基本的にはそのかかった本人が悪いというような自己責任論で考えられると思うが、今回の講義で環境に左右されるということを知り、環境から改善していくことも必要であると感じ、その点で協同組合は優れていると感じた。病気の治療だけではなく、健康増進や検診などの取り組みを行っていることで環境面の改善ができていくと思う。コロナで社会分断される中で協働性を基礎とした活動が自然発生的に様々な場所で行われていたということから、今回のような分断されるような状況に対しての協同組合の可能性を見ることができた。協同組合であっても社会を助けるとともに利益を出すような取り組みを行っていくことが重要であると感じた。
- ・「健康の社会的決定要因」と「健康格差」において、病気を発症した患者の状態だけを見て、「1対1の原因がある」という原因探しをしているだけという話があったが、これは問題を1つの角度からしか見ておらず、多面的・あらゆる角度から見られていないということの意味していると感じた。私も問題に直面したとき、一点からしか見られていないと感じることもあったため、多面的に見て問題解決に役立てていきたい。「いきいきくらしの会」の活動内容の中に、特技を学び合いながら、という項目があったが、やはり自分のできることや得意なことを人に教えることは楽しいと感じた。組合員の一人が、人の役に立てた、喜んでもらえたと言っていたように、私もアルバイトをしてお客さんに「ありがとう」という言葉をかけてもらえるだけですごく嬉しく思う。やはり私も人の役に立つことをしたい。コロナ禍では、人との接触が減り、私もこのようにオンラインという形で授業を受けている。オンライン化は時間を効率よく使えるという利点が挙げられるが、リアルで話すのとは違うように感じた。今日は民法総則の対面授業があり、久しぶりに大学に登校したが、授業中も授業後も、やはり対面での授業は、授業を受けたということを感じられると思った。デジタル教育に力を向けられた世代はこれから進むと推測されるオンライン化にも十分に対応できると思うが、デジタル領域に不慣れな世代や人は、これから生活することが少し難しくなると私は思う。
- ・職員の方やボランティアの方、組合員の方が一丸となって医療を提供するだけでなく、ともに地域住民の方の健康とその地域のまちづくりをされていると感じました。小さな意見に目を向けて活動されているからこそ、スライドにも出ていたような笑顔が生まれているのだと感じました。少子高齢化が進む中で、このような活動をしていくことが徐々に困難になりつつあると思いますが、協同組合の特性を生かして、お互いが手を取り合って安心して暮らせる地域を作っていかなければいけないと感じました。

以上